

特徴ある地方庭園文化 “出雲と津軽”

木 佐 幸 佳

1. 庭園の様式について

庭園の様式は時代とともに、一般的に『寝殿造り庭園（平安時代）』『浄土式庭園（平安時代）』『枯山水（鎌倉、室町、戦国時代）』『書院式庭園（安土桃山時代）』『茶庭（安土桃山時代）』『回遊式庭園（江戸時代）』『大名庭（江戸時代）』などがある。

庭園が庶民の生活の場にまで広がったのは、江戸時代の中頃である。社会の安定化が庭園趣味を生み、一方では作庭書の刊行によって庭園が定型化された。こうした庭園文化が江戸や京都から地方へと普及して、その地方に素材を求めた独特の作庭が生まれてきた。大名や社寺の庭園だけでなく、新田開発などにより豪農が発生し、庶民レベルでの作庭が多くなってきた。

今回、地方の風土に応じた特徴のある地方庭園を調べてみると、出雲地方に出雲流庭園（玄丹流庭園とも言われる）、津軽地方に武学流庭園があることがわかった。以下、この2つの特徴をまとめてみた。

2. 出雲流庭園の特徴

出雲地方には築地松のある屋敷に同じ形態の庭があり、これが出雲流庭園である。出雲流（玄丹流）庭園を創出した沢玄丹は松平不昧公のお抱え庭師として江戸から来たと言われているが、詳しくはわかっていない。庭の作風が茶庭的な感覚を受けるのは不昧公の影響を受けているためであろう。

この庭園の特徴は、平地部利用の枯山水庭園が多く、旧松江藩内にだけ見られる。発生は江戸末期であり、最も発達したのが明治から大正時代にかけてで、今もその形が姿を変えながら残されている。出雲地方の庭園は、築地松や茶の湯文化、伝統を重んじる地域性などによって作られ、そして長く存在してきた。

この形式の典型的な特徴は、次の通りである。

- ・庭園の位置は建物とのセットで考えられており、建物は南向きで敷地の北と西へ寄せられて作られ、庭園は建物の西南部に作られる。
- ・敷地の南側にある表門と玄関は一直線で、その西側に塀をして建物寄りに中門を作る。
- ・建物の床面は高く、縁側は必ず廊下を付けて庭園と接しており、庭園を見下ろす感じとなっている。
- ・地割（庭園の配置）は単純で起伏のない簡素なものであり、平面的な構成に優れており、敷地内に築山を設けたり深い枯池を設けたりしない。
- ・最大の特徴は飛び石と砂を中心とした庭であり、石組みは添え物的な感じである。また、外部の明かりを屋敷内に取り入れるため、白砂を使うことが多い。
- ・飛び石は丸みの強い小ぶりの石、天端はなるべく平らなものを使う。高さは比較的高

く打たれており、実用的で歩きやすく機能的で華美でないのが特色である。

- ・飛び石の中に短冊石（細長い切石）や丸い白石を使い、短冊石は建物と平行に据える。そして、短冊石は庭の正面中央の一番見える位置に据える。
- ・御影石を長方形に切った沓脱石を据える。
- ・樹木はクロマツが多く、細かく手入れがされている。

斐川の豪農屋敷を見るとこの特徴がよくわかる。この形式が各家庭の実情にあわせて変えて作庭されている。

3. 武学流庭園（津軽地方）の特徴

武学流の起源は、地方へ下った公家が伝えたもので本来の仏教文化と地方に根付く古神道文化の手法を取り入れた京風の作庭と言われているが、はっきりとしない。この庭園様式は津軽地方しか存在せず、ミステリアスな要素が多い。

この庭園の特徴は、次の点が上げられる。

- ・平野部でありながら築山を高く築く。地割は起伏の多い複雑な形である。石組みが特徴であり、滝石組も枯滝として巨石を組み上げる。
- ・飛び石は出雲流より大きく、装飾的である。
- ・この流派の神髄は『拝む庭』と言われ、宗教との関係が色濃いように思われる。

代表的な庭園として、池泉回遊式庭園の『成美園』（青森県平川市）がある。この庭園はこの地方の資産家が明治時代に作ったもので、庭園内に『成美館』という和洋折衷様式の建物がある。1階が純和風、2階が洋風で丸屋根を持つ展望台と尖塔があり、全国的にも珍しいこの建物は不思議なことに何の違和感もなく庭園と調和しているという。今年のジブリ作品映画『借りぐらしのアリエッティ』の建物や世界観のイメージはこの建物と庭園を参考にしたと言われる。

なお、『成美園』のある旧尾上町の家々には庭が多くあり、『農村アメニティコンクール優秀賞』『農村景観百選』指定の町として全国的に高い評価を受けている。毎年5月には中心商店街にある民家の庭を無料開放して『庭園めぐり』を開催しているという。

一般家庭に庭が多いという点は出雲地方と共通しており、いずれも江戸末期から明治・大正が全盛期であるのも興味深い。また、『神話の里』出雲地方が簡素な庭園で、『ねぶたの里』津軽地方は華美な庭園であるのも面白い。

4. 今後の展開

出雲地方に残る庭園形式が、全国的にも数少ない地方色を持っていることは誇るべき財産である。庭園は建築、茶道、宗教などとともに考える必要があり、出雲の風土がこの庭園形式を生み出したものといえる。出雲流庭園の価値をもっと広めるためにも、多くの庭園を訪れて確認するとともに、他地方（特に津軽地方）の庭園も調べてみたい。

【参考文献：『出雲流庭園（歴史と造形）』小口基実、戸田芳樹】